

# ICT超高齢社会構想会議WG からの検討報告

ICT超高齢社会構想会議WG主査  
金子 郁容

## 第1回WG（12月21日）

【テーマ: 超高齢社会の現状とICT利活用】

### ●プレゼンテーション

- 檜山構成員(東京大学) 「高齢者への生活就労支援」
- 岩崎構成員(早稲田大学) 「超高齢社会の課題と解決策」
- 園田構成員(高齢先進国モデル構想会議) 「超高齢社会における新しい社会システムの創造」
- 高橋構成員(みずほコーポレート銀行) 「高齢者向け市場の将来像」

### ●検討方針

## 第2回WG（1月24日）

【テーマ: 健康・医療・介護】

### ●プレゼンテーション

- 石原構成員(NTT) 「医療・健康分野への取組」
- 長澤臨時構成員(タニタ) 「ICTを活用した健康プロジェクト」
- 大石構成員(メディヴァ) 「在宅医療とICT」
- 久野構成員(筑波大学) 「ICTを活用した『健幸都市』」
- 田上構成員(インテル) 「コンティニュー・ヘルス・アライアンスの取組」

### ●意見交換

## 第3回WG（2月14日）

【テーマ: 生きがい・就労、コミュニティ・社会参加】

### ●プレゼンテーション

- 田澤構成員(ワイズスタッフ) 「超高齢化社会に向けた『働き方』の改革」
- 秋好ゲストスピーカー(ランサーズ) 「日本最大級クラウドソーシングサービス“Lancers”のご紹介」
- 藤沢構成員(RCF復興支援チーム) 「被災地事例を通して考える、超高齢社会におけるICT活用の方向性」
- 泉構成員(EBH推進協議会) 「超高齢社会の暮らし方」
- 堀池ゲストスピーカー(好齢ビジネスパートナーズ) 「高齢者と地域プロジェクト 事例」
- 小林構成員(日本アイ・ビー・エム) 「シニア就労とICTの未来」

### ●意見交換

## 問題点・課題

健康・予防などについての従来の取組みについては、スケールアウトモデルが必ずしも確立していない  
課題例:無関心層をどう取り込むか

高齢者の問題のみがフォーカスされる傾向がある。高齢者の活力を引き出す社会作りができていない

在宅医療の実施は効率性が課題  
医療・介護・予防の連携体制が現状では十分にできていない

新機種がでるたびに高齢者のICTリテラシーが課題になる

アクティブでない高齢者にとってネット利用の通信費が高い

## 解決に向けた取組み

自助・自立の仕組み作り  
就労機会の創出・社会参加・いきがい作り等によって  
高齢者は支援・援助される対象→協働・支援し合う対象  
という発想の転換を実現する

コミュニティのちからの活用  
自己変容、行動変容は個別には難しいが  
コミュニティの一員として刺激し合いながら達成する  
若年層との共生による地域コミュニティの活性化

高齢者は貴重な社会的リソースであるという  
新しい価値を創る新しい発想＝イノベーションが必要  
高齢者層は1,500兆円とも言われる資産を保有する  
人数が多いことから、若者マーケットとは別の  
マセグメントの消費者として重要なはず

通信機能付きセンサーなど日本が強い分野を促進し  
標準化を進めることで、高齢化が進行中のアジア諸国に  
システムを輸出する

高齢者のニーズ／マーケットの把握

事業の継続性・採算性  
ビジネス・サービスモデルの確立

在宅医療の効率化  
異業種の相互関係・連動性の整理とプラットフォーム化  
在宅医療・他業種連携情報システムの構築  
クラウドと連動した簡易で柔軟な汎用PHR/EHRの構築  
在宅医療・介護のバックヤード支援システム

## 具体的な解決方法

在宅勤務、テレワーク、クラウドソーシング  
などの社会資源活用システムの採用

高齢者の「教え合いネットワーク」作り  
ICTスキルのある退職者などによる  
高齢者支援ネットワークの組織化

インセンティブだけでなく、適切な自己管理をしないと一定のペナルティを課す？

高齢者の身体／認知機能補填だけではなく、経験、総合的判断など得意分野の活用を促進するICTシステムの導入

コミュニティの活性化  
愛着、コミュニケーションと交流の促進  
等によってコミュニティの  
ソーシャルキャピタルを高める

標準化・汎用化→社会システムとして  
パッケージをアジア諸国に輸出

安価なICTシステム環境の実現  
例:若者中心だけでなく、高齢者向けの  
通信料金スキーム

経済循環モデルの構築  
例:地域通貨、ポイント制度

## 第1回WG（検討テーマ：超高齢社会の現状とICT利活用）

- 2020年、2030年を見据えた対策として、現在の40代、50代のニーズやマーケット等の調査結果に基づく取組やビジネスモデル等の検討が必要。
- 就労や社会参加は重要なテーマ。それをきっかけに高齢者の自助、自立を促すような、高齢者の活力を引き出す社会づくりが重要。
- 高齢者間の活動だけでなく、高齢者と若年者との共生による地域コミュニティの活動と連動したICT利活用の検討が必要。

## 第2回WG（検討テーマ：健康・医療・介護）

- 健康関連の取組は、事業の継続性やビジネスモデル構築の可能性を踏まえ、相当程度の人数規模での取組を展開することが必要であり、そのため、多くの無関心層を巻き込むことが重要。
- 医療や健康は、インセンティブだけでなく、適切に自己管理をしなければ何らかの不利益を被るといったアメとムチのような仕組みについても併せて検討する必要があるのではないか。
- 人々の行動変容を起こすには、コミュニティにおける協働、協働によるコミュニティの活性化が必要であり、ICT利活用による超高齢社会への対応においても、その基盤となるコミュニティ形成が必要。
- シルバー産業のイノベーションを図るためにも、各検討対象分野の相互関係や連動性等、軸の整理を図ることが必要。

## 第3回WG（検討テーマ：生きがい・就労、コミュニティ・社会参加）

（生きがい・就労）

- 今後、在宅介護のさらなる増加が見込まれる。場所や時間にとらわれないテレワークやクラウドソーシング等の柔軟な就労形態、それを可能とする企業体制等の環境構築が必要。
- クラウドソーシングは都市だけでなく地方でも就労可能であり今後の発展が期待されるが、個人活用を行う法人や先進的な取組を行う企業の支援が必要。
- シニア就労にあたっては、身体機能や認知機能を「補う」ためのICTだけでなく、高齢者の経験・知識を「活かす」ためのICTが重要。これによって、セカンド・キャリアやシニアライフの選択肢の幅も広がる。

（コミュニティ・社会参加）

- コミュニティの成熟度と、地域への愛着、高齢者の自立化、就労意欲の向上とは強く関係しているが、都市でも地方でもコミュニティ意識の希薄化が進んでいる。ICTを活用した交流促進は有効な取組。
- コミュニティ形成、地域プロジェクトの推進は、どのようにして多くの人に参加してもらうか、どのようにして経済循環モデルをつくるかが課題。方法の一つとして、地域通貨やポイント制度の導入は有効。
- SNSなどICTを活用した交流促進に必要な高齢者のICTリテラシーは当面の現実問題。
- 高齢者のICT利活用をサポートする人材の育成や、安価なICTシステム・サービスを可能とする環境構築が必要。
- 高齢者のICT利活用のサポートは、地域内外のボランティアの他、高齢者間で教え合うことも有効であり、こうしたサポートがコミュニティ形成にもつながっていく。